

パワーズ 第16号 Powers!

発行責任者：飯田 和（小田原市栄町2-13-1 そびそ二宮ビル2F おだわらを拓く力【加藤けんいち後援会】）



加藤けんいち 43歳
「可能性の大地小田原」の再生に向け東奔西走中!

「新しい小田原へ」

市民の力を集めよう!

小田原市が最近実施した「市民生活満足度調査」によると、「重要度が高いが、満足度の低い」と市民が感じる分野の上位に、介護・福祉、医療、防災、防犯、子育てなどが上がっています。老後の暮らし、健康を害したときの医療体制、子どもたちを取り巻く社会環境、にわかに現実味を帯びてきた大震災など、私たち市民の生活に関する不安は日を追って増えています。

本来、市民のそれらの不安を最小限に抑え、いつまでも安心して暮らせる地域社会の基礎づくりを行うのが、地域の自治体の役割で

す。豊かな地域資源に恵まれ、人が暮らすにはこの上ない場所である小田原でありながら、そこに住む私たちの最も基本的なニーズである「生活における安心と豊かさ」が満たされないのは、一体どうしてなのでしょう。

小田原に限らず、地方自治体の財政が厳しいことは周知の事実です。であれば、無駄遣いを省き、民も官も知恵と力を出し合い、まずは上記の分野の充実を、地域を挙げて目指すべきです。しかし残念ながら、（仮称）城下町ホール建設計画やお城通り再開発事業に

明らかなように、市民の意見が十分に反映されず、しかもその建設や土地取得のために貴重な税金から毎年数億円もの借金返済をし続けなければならない、そんな事業の実現ばかりが急がれています。これでは、私たち市民の生活分野への資源配分はいよいよ先細ることは避けられません。

いつまでも安心して暮らすことの出来る「新しい小田原」を、市民が主体となって創り上げる。その方向へ、明確に舵を切る時期を迎えています。今こそ、市民の力を集めるときです!

イベントの紹介

第4回小田原再生フォーラム ～地域は自然と共に生きる～



北上山地のほぼ中央、典型的な山間の過疎地から、「ミルクとワ

インとクリーンエネルギーのまち」を築き上げ、全国から視察者の絶えない岩手県葛巻町。町のシンボルである風力発電を中心に、自然の恵みを生かした様々な地域振興策は、自然環境との共生がもたらす豊かな可能性を示しています。

地域の厳しい現実の中、時代の流れを読み活路を拓いた当時の町長、遠藤治夫氏をお招きします。

★と き：19年11月18日(日)
10:00～12:00

★と ころ：小田原市民会館 6F

★内 容：

①基調講演

「葛巻の選択～自然と共に」

スピーカー：遠藤治夫氏

岩手県葛巻町 元町長

②シンポジウム

「自然を活かした地域振興」

遠藤氏、環境活動関係の方々

コーディネート：加藤憲一

★参加費：1000円（資料代等）

★主催／お問合せ：

（有）あしがら総研 ☎20 0575

持続可能な



おだわらを拓く 地域ビジョン

市民自治のまちへ

～新しい小田原への政策構想(抜粋)～

これまで“Powers!!”では、小田原に山積する問題を解決するため、参考になると思われる各地の先進事例紹介を続けてきました。それらをふまえ、今回は「これから小田原が取り組むべきことは何か？」について、現時点での加藤けんいちの考えをまとめてお伝えします。

1

どんな地域を目指すのか？

「持続可能な、市民自治のまち」

問題解決力を持つ市民が主役となって地域づくりを担い、環境的にも経済的にも社会的にも安定・充実した、いつまでも安心して暮らし続けることのできる、いのちへの優しさで市民活力が溢れるまち。それが小田原の理想像です。



2

何を大きく変えるのか？

①市民が主体となる

…………… (市民の視点)

これまで、様々な制度づくりにしても開発案件にしても、その多くは行政が主導し、市役所の中で決まったことが事後的に市民に報告されるだけでした。そのため、市民感覚や市民の願いとは異なる政策が実施され、行政への不信やあきらめ、そして無関心が市民の中に根付いてしまいました。

高齢化社会の進行などによる民生ニーズの増大の一方、自治体財政が日増しに厳しさを増し、全て

の市民ニーズを行政が受け止め実現することはいよいよ困難です。市民が意思決定の主体となり、また地域運営における様々な役割も担ってゆく。行政は市民を支える。市民と行政が、不信ではなく信頼関係の下に協働する方向へ発想を転換し、制度やシステムを見直す。これが全ての基礎になります。

②生活の充実を優先する

…………… (生活者の視点)

バブル崩壊と財政悪化の中で、いわゆるハコモノ行政は終わりを迎つつありますが、小田原では依然としてそれが行われています。税収減の中で行われる大型開発は、市民生活に直結する福祉・教育・医療・道路など生活関連分野への支出カットとなって、暮らしの中での不安・不満・不便を増大させています。

子どもが健やかに育ち、安心して子育てができ、病んだときも老いたときもしっかりと守られる、安全で安心な地域社会。そのような仕組みと営みを育てることこそ、全ての事業に優先すべき取り組みです。小田原市としての資源配分を、生活分野に大きくシフトすべきです。

③豊かな資源を活かす

…………… (マーケティングの視点)

自然環境、歴史、産業、文化、利便性など地域資源の厚みにおいて、小田原を含む足柄地域は、国

内でも屈指の可能性を誇る地域です。ところが、その多くがキチンと活かされていないため、衰退傾向に歯止めがかかりません。「宝の持ち腐れ状態」です。

「ロハス」「市民的成熟」「ほんものの豊かさ」を求める時代。それらの価値基準を視点に、生活者にも事業者にも、また来訪者にとっても享受ができるよう、地域内の様々な資源をしっかりと掘り起こし、磨き、活かすべきです。それだけで、この地域の未来は格段に豊かになることでしょう。

3

どんな政策が必要か？

①自然環境の再生

～いのちを守り養う基礎～



森、水源、里山、河川、農地、海、そして身近な街路樹や水路、路傍の草花。これらは、空気や水、そして食を私たちに供給する生存基盤であり、また健やかな生活・教育環境であり、来訪者にとっての小田原の魅力の源泉です。市民の総力で、自然環境の拡大と充実を進めます。

- ・森林の再生と、水源の涵養
- ・農地の保全活用、食の自給
- ・市街地の緑化と親水空間の整備
- ・各種自然エネルギーの生産と活用
- ・環境再生を担う市民活動育成／等

②地域コミュニティの育成

～教育と福祉の受け皿～



子どもが社会ルールを学ぶ、母親を地域で支える、障害のある人を助ける、お年寄りを敬う、それぞれの力を持ち寄り共同作業を行

う、文化を次世代に伝える……。今はとかく行政サービスに依存しがちなこれらの営みは、本来「地域の中で支えあ関係」の中でお互いに担ってきたものです。安心して育ち生きることのできる地域コミュニティの再生を目指します。

- ・地域で子どもを育てる仕組み作り
- ・児童館や子育て支援センター開設
- ・シニアが役割をもつ地域づくり
- ・地域センターとしての公民館へ
- ・生涯学習サークルへの支援／等

③生活インフラの充実

～日々の安全・安心の基盤～



市立病院の医師不足や診療科の閉鎖、要介護者の支援体制の不足、水道管等ライフラインの老朽化、狭くて危険な道路、迫り来る大震災への不安、高齢者には不便な自動車社会、ゴミ処理……。生活に直接係わるこれらの課題こそ、高い優先順位で着実に解決すべきです。民と官の協働で、整備と仕組みづくりを進めます。

- ・地域医療体制の確立
- ・ライフラインの総点検と安全確保
- ・災害に強いコミュニティづくり
- ・ゴミの地域内処理と循環づくり
- ・コミュニティバスの導入／等

④市民自治の仕組みづくり

～市民が主体で地域を運営～



市民の創意工夫と主体的な社会活動が、地域を支える大きな力として求められる時代。小田原市の様々な政策や開発、制度作りにおいても、その計画段階で市民の意見や願いが反映される仕組みが必要です。また、「地域の課題は地域で解決する」との考えに立ち、

小学校区などの地域単位に予算と権限を分権し、市民自身の問題解決力を育てるべきです。

- ・自治基本条例の制定
- ・常設型の住民投票条例の制定
- ・小学校区単位の地域自治区づくり
- ・市民の能力開発とボランティア育成
- ・NPOや市民活動の積極支援／等

⑤地域経済の活性化

～豊かな資源を十分に活かす～



優れた住環境、ものづくりの伝統と蓄積、豊富な自然素材、文学・文化資産の厚み、新鮮な食材、都心からの交通便利性、素晴らしい景観、温暖で穏やかな気候、技術系の優良事業所の分布……。小田原の経済を元気にするには、来訪者の増加、選択定住者の増加、優良事業所の増加、地域内経済の拡大が不可欠ですが、上記のごとく豊富な「資源」の活用によって、その可能性は十分に実現できます。

- ・ウォーキングタウンとしての整備
- ・文学遺産によるまち興し
- ・「ものづくり」「なりわい」の復興
- ・地場の材・工による建築の奨励
- ・意欲ある事業者への各種支援／等

⑥小田原らしいまちづくり

～自然・歴史・文化を軸に～



お城を中心として、自然に囲まれ、歴史と文化の香る、穏やかでどこか懐かしく、ゆったりと暮らすことの出来るまち。それが小田原の魅力です。いたずらな都市化と無秩序な開発は避け、緑地や水辺を増やし、低層主体の調和の取れた街並みを整え、市民や来訪者の交流空間を確保する。また高齢化社会を見据え、公共交通網の整

備、歩いて暮らせる分散型のまちづくりなどを目指します。

- ・百年後を見据えた中心市街地整備
- ・低層主体の美しい都市景観づくり
- ・住宅街の緑化推進と公園確保
- ・交流空間としての商店街再形成
- ・お城周辺の大型事業の再検討

⑦市役所改革

～市民自治対応と行財政改革～



市民が主体の地域づくりを進めるために、行政情報の徹底した透明化のもとに、計画立案から実施に至るまで市民と行政の協議・協働の場を大幅に拡大します。また、職員を各地区に配置し地域状況や市民生活に精通させると共に、ローテーションを長くし各分野のブロを育てます。可能な事業分野は民営化を進め、総額1600億円近い市債の早期圧縮を目指します。

- ・市政状況の徹底した透明化（行政・議会ともに）
- ・政策形成段階での市民参画促進
- ・小学校区への地域センター設置
- ・市職員の地域担当制導入
- ・「分度」による財政再建推進／等

重要

4

懸案には どう対応する？

①城下町ホール……………

新たなホールは必要ですが、市民や利用者の声が反映されていない現計画は白紙に戻さねばなりません。市民主体による検討委員会を再度立ち上げます。市民文化創造の拠点を目指し、2年ほどの期間をかけて誰もが納得できる建設計画に差し替えます。

②お城通り地区再開発……………

用地の8割以上が市有地という非常に大切な駅前の公共空間です。市民や地域内事業者の英知を集め、公共性が高く、小田原の顔となって、

中心市街地の活性化だけでなく地域振興に十分資するような再開発へと転換します。利活用の決まっていな地下街の活用と一体的に考えていきます。

③地域医療

市立病院は専門および救急医療機関へと特化すると共に、医師や看護師の勤務状況を改善しスタッフの確保を急ぎます。民間医療機関との連携を進め、誰もが身近な「かかりつけ医」を確保できる地域医療体制を目指します。

④防災



被災直後の助け合いに必須な、地域コミュニティ単位での「顔の見える関係」づくりと防災能力の向上に注力します。また、確実に機能停止する市役所を補うべく、

日常より他地域の自治体やNPOとの連携を進めます。

⑤高齢者介護

地域分散型の多様な小規模施設（ショートステイ、宅老所など）の開設を促すと共に、在宅で可能な限り介護・看護を続けられるよう、市民レベル・事業者レベルでのサポート機能の充実を急ぎます。

⑥財政健全化

市民も参加しての「事業仕分け」などの手法を導入、ムダを廃し民間委託を進め行政事業の整理統合を行います。一方で、一律的なコスト削減だけではなく、市民や職員のやる気と活力を引き出すよう、戦略的な資源の配分も必要です。

⑦広域合併

地域の総合力を発揮する意味でも、行政コストを下げる意味でも、広域合併は有効。ただし基礎となる地域コミュニティの充実が前提条件となります。当面は自治体間の経済活動連携を先行させ、交流実績と信頼を積むべきでしょう。



5 市民が創る マニフェスト

「おだわらを拓く力」では、加藤けんいちの提示する政策構想をたたき台として、多くの市民の皆さんと一緒に「マニフェスト」へ仕上げて行きたいと考えております。今回ご紹介した「新しい小田原への政策構想」を確実に実現するための個別具体的な施策アイデア、あるいは、より効果的な政策提案などを、「拓く力」へとお寄せ下さい（FAXまたはメールにてお願いします。HPにも掲示板を準備中）。来年3月には、「市民が創るマニフェスト」として発表させて頂きます。皆さんの積極的な参加をお待ちしております。

加藤けんいちのメッセージ

小 田原は「可能性の大地」です。自然と調和した生活、人間らしい暮らし、支えあって生きることのよこび、本当の豊かさや幸せ、そして、未来へと繋がってゆく確かな希望を、多くの人が手がすることができる町…。そんな「持続可能な、市民自治のまち」小田原を、皆さんと共に創っていきたく願っています。

【プロフィール】

1964年5月生まれ、現在43歳。

芦子小学校、城山中学校、小田原高校、京都大学法学部卒業。現在(有)あしがら総研（地域シンクタンク）代表。この間(株)コーポレート・ディレクション（経営戦略コンサルティング）、民間教育団体事務局長、農業、漁業、林業、オービックビル事務局長などを務めると共に、阪神淡路大震災・新潟中越地震のボランティア活動をはじめ、市民農グループの立ち上げ、「なりわい市場」開催など

市民活動にも積極的に取り組む。

また、県民討論交流集会の実行委員長（7年）、小田原市政策総合研究所市民研究員（2年）、国土交通省関連審議会委員、ほっとファイブタウン理事、谷津子ども会会長などを歴任。現在、芦子小学校PTA会長、小田原銀座商店会役員。

2004年、小田原市長選に立候補。31244票 を得るも惜敗。

妻と子ども二人の4人家族。趣味は山歩きと旅。

身長182cm、体重80kg。



おだわらを拓く力 （加藤けんいち 後援会）

〒250-0011

小田原市栄町2-13-1

そびそ二宮ビル2F

TEL 0465-21-5260

FAX 0465-21-5261

URL <http://www.katoken.info>

E-mail powers@mbn.nifty.com

・事務所のオープンは、毎週月・水・金曜日の10:00~16:00です。

・この紙面は、市民の皆さんから寄せられた会費や寄付等によって製作・配布されております。